

2月1-4日の夜  
○ルメアから部屋に来るのでアラカルト出された。

「○ルメア、入るぞ。」

「団長ちやんがじゅうじゅういふ

部屋に入ると裸エプロンの○ルメアが出迎えていた。  
しかも胸の所がバッククリアアナが開いていて、  
○ルメアの豊満な胸が丸見えだ。

アルーン



『今日は2月14日だから、  
団長ちゃんに手作りチョコのプレゼント  
ハイ、どうも♪』

○ルメアは後ろに隠じていた  
手作りチョコを俺に渡した。

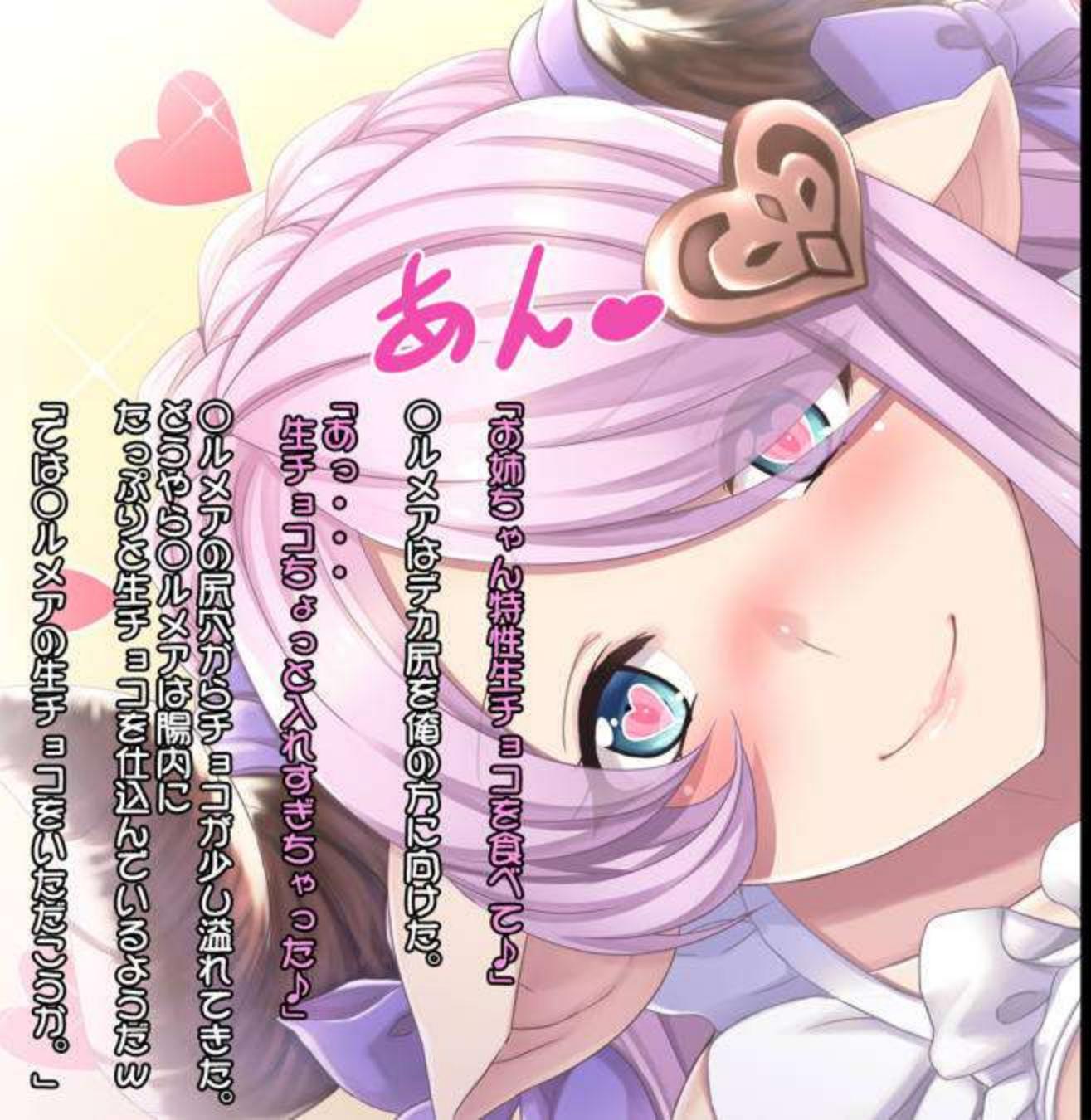
『ありがとうございます。  
○ルメアの手作りチョコが嬉しいです。』



「団長ちゃん、実は今すぐ食べひよひよ  
チョコがあるの♪」

○ルメアは四つん這いにならせるが、口の左。  
なせか下半身を舐めながら舐めていた。

モジ~  
モジ~



「団長のやさしさを胸に抱き上がれ♪

○ルメアはうれかじ桃尻を俺の方に向か、手ひアナルを広げた。

『○ルメアの桃尻はじめて見ても口ごとな。』

アハハハ

ゲイ。。。

「団長ちゃん♪机の上にたるクッキーをつけじ食べじね♪  
名づけてあ姉ちゃんのチョコフオンチュー♪」

○ルメアは自信たっぷりな様子だ。

「んれを○ルメアのアナルに挿せばいいのが。」

俺はアート・イック型のクッキーを手に取った。

「それをあ姉ちゃんのあ尻のへに挿ひひ、  
生チヨコをたっぷり付けじ食べて♪」

○ルメアのアナルから生チヨコが溢れ出している。

あん~

アハ~

ゲイ~

トコオ~

俺はクッキーを数本○ルメアのアナルに挿し、  
生チョコをたっぷり付けた。

「あんまり尻の穴を感じちゃう♪」

○ルメアは尻の穴にクッキーを挿されて感じている。  
「まだチョコを塗り残れば充分かな。」

あん~  
アハ~  
トコキ~  
ゲイ~

俺は生チヨコクッキーを一本食べた。

「モグモグ・・・美味しい!  
○ルメアの生チヨコクッキーすんぐ美味しいよー!」

「ほんと!  
団長ちゅんに喜んじもりえひ あ姉ちゃんも嬉しい♪

結局俺は一〇本ほど  
○ルメアの生チヨコクッキーを食べた。



『団長ちゃん、最後はこの母乳入り  
ミルクが入った浣腸器で、  
あ姉ちゃんのお尻の穴にちゅ～っていひし』

机の上にミルクが入った  
特大浣腸器を置いてあつたのと取った。



アハ～

ゲイ～

あん～

「あああ、うわあ。」

俺は○ルメアのアルルに浣腸器を差し込んでミルクを注入した。

「あん♪冷たいミルクがある腹の中に入るのはいいが、これてあ姉ちゃんの生チョコシェイクの出来上がり♪このストローで飲んこね♪」

俺は○ルメアにストローを手渡された。

あん~

アハ~  
うわ~

ゲイ~

俺はストロー<sup>m</sup>ルメアのアナルに挿した。

「あん♪ストロー<sup>m</sup>ルメアがあ尻の穴の奥深くまで入ってぐる♪」

「○ルメアの生チョコショイク飲ませてもいい。」

あん♪

ハアー  
ハアー

アリーン  
ブスッ

ゲイ..

「ちゅう～♪ 美味いー、  
この味癖にならぬがなぐりて美味いよ♪」

俺は夢中で生チヨコシェイクを飲んだ。

「ハアハア♪アヘ♪ 団長ちゃんが  
私の生チヨコシェイク夢中で吸って飲んでる♪  
団長ちゃんに喜んでもらえて  
あ姉ちゃん嬉しい♪」

ゞワ～ゞワ～

ちゅう～

ゲイ～

アハ～

ハア～  
ハア～

アヘ～

ストローを抜くとナルから  
生チヨコシェイクが溢れてきた。

「あ、と生チヨコシェイクが！  
勿体無いレロレロ♪」

「ハアハア♪あん♪団長ちゃん、  
そんなに舌で尻の穴刺激されたり。。。  
こちやう。。。」

「○ルメア、ナルがヒクヒクじるそり  
残った生チヨコシェイクが出どうなんだな？  
それなら直接俺の口注いでくれ。」

「アハア♪ 団長ちゃん、  
少し待ってね♪  
んん・・・あっあなたがー!」

「○ルメアの可愛いあなたの音が聞こえると  
クンカクンカクちゅうと臭うな!」

「団長ちゃん♪  
恥ずかしいから臭い嗅がないじょー!」

あへん

んん~

ハマ~  
ハマ~

アハ~  
ヒツ~  
ヒツ~  
アハ~

ゲイ~

「んふー、こりゃうまいわ～

○ルメアは生チヨコシェイクを口に含むと、

「ゴクゴク♪○ルメアの  
生チヨコシェイクを口飲むひきなんじ幸せだよ。」

俺の○ルメアの生チヨコシェイクを全部飲み干した。

「ハアハア♪アヒヤ♪団長ちゃんに  
生チヨコシェイク全部飲みられちゃったあ♪

ブフ ブフ

ジババババ

アパン

ブリュ'リュ'リュ

ゲイ

アヒヤ

ハア  
ハア

○生チョコを噴射し終った直後、  
○ルメアのアナルが大きくなっている。

「あん♪あなた方・・・」

○ルメアの肛門が、たまに大きななめらか出だ。

「クンカクンカ♪さつきより  
臭くなっているぞ!!

ミルク浣腸でお腹が冷えたのかな?」

「あん♪団長ちゃん臭い喫がないこえ!  
ハアハア♪ごちゅうり。・。・。」

「あーうんちが出ごま始めたぞ。  
なんご太せだわ」

「ハアハア♪んん。。。  
団長ちゃんの前でうんちするなよじ。。。  
恥ずかしいのに、  
お姉ちゃん興奮ひちゃうる」

んん~  
ハア~  
ハア~  
アーハ~  
ム~  
ム~  
ゲイ~

「んん・・・ふくふくのうきひのうきひのう」

「やのぱり○ルメアの脱糞姿を  
最高にエロいよ！  
今までで一番太いんじやないか！」

「ハアハア♪アヒヤ♪  
お姉ちゃんの恥ずかしい極太うんち、  
団長ちゃんに見られてるう♪」





「やめの我慢じきないー」

○ルメアの脱糞を見て興奮した俺が、  
彼女をベッドに押し倒した。  
○ルメアはテカい桃尻をぶたかせながら、アッパリ倒れこんだ。

「あん♪ 団長ちやん。ちよのと目がハマるよ。」



「ハア。。。ハア。○ルメアの桃尻工口いよー」

「あん♪ 団長ちゃん。そんなに強く捕まると少し痛い。」

ガシ、

俺は○ルメアの「アナルを舐め回した。

「あん♪ 団長ちゃん。さっき出したばかりで汚いから。。。お尻の穴舐めちゃダメェ！」

『ペロペロ♪○ルメアのアナル、サクサクねじ入れてヨコヨコフレートの甘さとうんちの苦味が合わせ合って美味ひ〜。』

俺は○ルメアが静止するのも止まらず、夢中でアナルを舐め続けた。

ガシ、

フリ、

ペコ、

ペコ、



「團長ちゃん。。。もう舐めたりゅや。。。あああ

『團長ちゃんに汚い尻の穴  
舐められてるのに舌気持ちいいよお』

『ペロペロ♪オルメアのアナルカリ穴が溢れてますミ  
ふふふ、感じますな。』

フリ~。

ペコ~

ペコ~

トワ~。

ガシ~。

あふん~

「ひ、これぐらじでがな。  
次は……」

『だ、ダメの一出せやう』

○ルメアは俺の顔に大きなオナフを浴びせた。

『クンカクンカ♪○ルメア、  
せっせりるなりガクサレギ』

『ああん、臭い喫がないじゃー！』

ガシ、

ブク～

ア・ハ～  
ケ・カ～

ブリ～

トワ～

あふん～

「うんうクカ～あらりゅすするアナルには  
ちやんじ性をひじかないじじむ」

俺は○ルメアのアナルにホホボを挿へつた。

「あん♪ 団長ちゃんの  
あつきなチンポがあ尻の穴に入るのはいい。」

「○ルメアのアナルが俺のホホボを舐めたり舐むねりよ。

「あああああ～ハアハア♪  
団長ちやんのあらりゅすするアナル

俺は○ルメアのアナルを舐めあげるわ。そ。  
○ルメアも感じじ口元のんじて。

ガシ、

ズブッ!!

ブリ、

パン!!

ハア  
ハア

あん

「○ルメアのアナル気持ちよさで。。。  
もう限界。。。○ルメア出でるー」

俺は○ルメアのアナルにサーメンを詰め込む。

「あん♪お腹の中に  
团长ちゃんのあつたかいあひんをねぐらべが入った感じの♪」

「発たけじゅ物足りないー」

俺が腰を抜かすと再びズボン始動だ

ガシ、

ブリ、

パン!!

パン!!

ドブッ!!

ガシ、

ハア  
ハア

あん~

一時間後

あれから3回ほどアナルに射精した。  
○ルメアもだらしない  
アヘ顔晒してヨガリまくっている。

「あちんぽ気持ちいい♪あちんぽ気持ちいい♪  
あちんぽ気持ちいいよ♪

「○ルメア、これが今日最後の射精だあー!」

俺は○ルメアの腸内に  
残りのカーメンを一滴残らず射精した。

「アヒィ～团长りゃんのあちんぽめぐる  
じゅ～気持ちいいのあ♪

俺の射精と同時に  
○ルメアは潮を噴きながらイった。



ハア～  
ハア～



パン!!  
パン!!

ブリ・。

ドブッ!!

ブシュー ガシ～



大量に注いだ俺のサーメンが  
○ルメアのアルカリ流れ出しじる。

「ハア・ダメの出ちゃう♪  
んん・・・んきい♪」

「ハアハア♪」

「ああーーちっくわだけ出しだのよ  
き友極太うんちが出ていたよ♪」

○ルメアは顔を真っ赤にしてキバジ始めた。  
肛門がヒクヒク動き出した直後、

「ガシッ♪」

「ハア  
ハア

「ハア  
ハア

「ハア  
ハア



「ああー今日一度目の○ルメアのエロ脱糞だわ  
さっさ出しあはがりなのに、  
まだうんちな極太うんちで止り出するんだじ。。。  
○ルメアの腸内はうんちの製造機だるw」

○ルメアは極太うんちを出し続けた。

「アヘト团长ちゃんに恥ずかしい脱糞姿見られたら感じちやうるー！  
ハアハア♪おんち止まるにやいいい♪」

○ルメアはつぶらな潮噴きながら脱糞ひだりだ

「あ～あ～脱糞ひながら潮噴き出しちゃったる  
○ルメア、脱糞ひながら感じじるのか？」

「ほい♪团长ちゃんに見られながら  
脱糞するの気持ちよすぎて。。。  
あぬちゃんいつちやうの も♪」

「の日、俺は脱糞を見たがるルメアは、  
シーッと大量のオロチの糞を撒いた。

ブリ・  
ヒラ  
ブリュリュ  
プッシュガシ

3月—4日の夜  
俺は○ルメアの部屋にいた。

「○ルメア、入るぞ。」

「団長ちゃんがいいじゃん！」

このもののあたり裸エプロンの○ルメアが出来てました。

「はい。バレンタインのお友び。」

俺は○ルメアにクッキーを手渡した。

「団長ちゃん。ありがとうございます。」

アルー！



「もう一つプレゼントがあるんだ。  
今日一日○ルメアの言う事を  
なんとも聞いてあげるよ。」

「えっなんともいいの?」

○ルメアは嬉しそうに目を輝かせていた。

アルーン



「団長のやんふ先輩が服を脱がせ  
るのを見てた

○ルメアはうれじゆのゆう、  
お尻を振りながら走る。あした。

「ちゅう、俺がじきい事なひなさひてこそー。  
ちゅうのちゅうなりひよーた」

あし



俺は裸になりベッドに腰掛けた。  
○ルメアも裸になり、俺の横に座った。

「団長ちゃん♪あ姉ちゃんがシゴいてあけるから  
じっこじこね♪団長ちゃんは自分もつかな♪」

○ルメアは少しイジワルな笑みを浮かべ、  
俺のチンポを手でシゴき始めた。

シコー

シコー



「団長ちゅるるりゅーあんあ舌も出つひー」

○ルメアは、シコきながりキスひできた。  
更に舌を出しペロちゅーおせがんじきた。

「レロレロレロレロ♪  
団長ちゅるるのペロちゅー大好き♪」



「オルメアにベロちゅうされた方が  
シコいてもりえるなんて……」

「ふふふ♪ 団長ちゃんのオチンンチソ  
すごく大きくなっちゃ♪  
でも、まだイッちゃダメだよ♪」

シコー シコー

あん~

「レロレロ♪んあゅ～♪  
もつと団長ちゃんじべろひゅ～じたい♪

○ルメアは、再びシコきながり  
ペロちゅ～を始めた。

あん～

レワ～  
レワ～

シコ～  
シコ～

シコ～

シコ～

あん~

「ぐう〇ルメア、俺もう限界だよ。」  
「レロレロレロ♪ハアハア♪  
オチンチンからガマン汁が溢れてきたあ♪  
団長ちゃんのオチンチン脈うつてる♪もう少しだけガマンひご♪  
○ルメアは、ペロちゅ~しながら  
更に激しく扱きだした。」

レワ~  
レワ~

トロオ~

ハア~  
ハア~

シコ~  
シコ~  
シコ~

トコ~

シコ~

シコ~

あん~

「レロレロレロ♪ハアハア♪  
オチンポミルクいっぱい出てる♪  
お姉ちゃんが全部絞りだしてあげる♪  
ザーメンを絞り出し始めた。」

「う、限界だ!」

俺は大量に射精した。

トロオ~

ハア~

レワ~

ビュル~!

シコ~

シコ~

シコ~

ビフ~

シコ~

シコ~

シコ~

ちゃん

「ハアハア♪  
団長ちゃん♪いっぱいオチンポミル出し忘ね♪  
あ姉ちゃんの股間もいっぱい濡れちゃったの♪  
団長ちゃん♪次は横になつてね♪

床に俺のサーメンが大量にぶちまけられている。あ互いの舌の間で一人の唾液が糸を引いている。

トロオ～

ハア  
ハア

ギュ…♡

# ベトナム

俺の○ルメアの尻を揉みまくり回しながらの腰だ。

「○ルメア、んあひらうがー！」

「次は団長ちゃんが大好きな、お姉ちゃんのお尻をシコシコつぶやかれる！」

○ルメアは俺の腰の上に乗り、テカ流し俺のオノボを弄りつぶやく。

ニコ♥

プリン♥

シコ♥

シコ♥

○ルメアは尻を擦りつかる様にひい  
箇のチノボをひくむかねる

「○ルメアのリカ尻のケツ圧とマン汁が潤滑油になら  
絶妙なシコセキが減だよ。」

『あん♪シゴく度に団長ちゃんの  
オチンチンが大きくなつていい♪』

『ふ♪○ルメアケツモガ生々しいわ。  
せいやのチ入れをウボのじるなう』

『あん見ちゃダメ♪  
だつて最近、団長ちゃんをエッチしないから。。。』



「団長ちやん♪」ればばりぐるぐる

○ルメアは枕元を左右に動かし、グリグリと俺のチンポをシゴいてました。

「おのれ氣持ちよきやうじ、  
此坂へトイのひはござるだ。」

「あん♪ まだイミチャヤダメだと♪」



「団長ちゃん、お姉ちゃんもイキそうだな。」

○ルメアは桃尻を早く動かし  
俺のチンポをシゴいていく。  
○ルメアの方マンツカ  
マンオガどんどん溢れしていく。

『○ルメアー俺のハラの限界だ。』

「あん♪お姉ちゃんもイキそうだな。  
団長ちゃん一緒にイキましょ♪』

あん♥  
ハイ♥ ハイ♥

プリン♥

トロメ～～

シコ♥ シコ♥

グリ～

グリ～

『○ルメアーナルルー』

「お姉ちゃんも、イのちゅうひのうへ

俺の○ルメアーナルルイのた。

『ハルマヘラヌヌリルタヌルハルスリヤギルヘスル

○ルメアーナルヌリルタヌルハルスリヤギルヘスル。

『ハクハキルハシテヒヤウタナム』

アヒイ  
ハイ  
ハイ

プリン

ジコロコロイ～

シコ  
シコ

ビュルル!

グリ

グリ

「団長ちゃんのオチンチン  
まだ大きいまま脈つってるし残りす出ひこね♪」

○ルメアは再び桃尻を動かしつづけのチンポをシン」を始めた。

「あん♪タメの一ひとやり♪」

○ルメアは大歩なるなゆつた。

「クンカクンカ♪  
また一段とクサくて香ばしい  
臭いののなら方ひとぞ♪」

「あん♪臭い喫かないじゃー！」



プリン♥

ブダク～♥

ヒク～

ヒク～

シコ～

シコ～

グリ～

グリ～

「ち、ちの限界ー」

「団長ちゃんのオチンチン  
ピュクピュク♪脈つっこる♪  
オオシ♪あ姉ちゃんもイクうう♪」

俺と○ルメアは再び同時に絶頂を迎えた。  
俺の精液とナルメアのイキションが同時に射精した。

オ・ハハ  
ハハ

プリン

ジココリィ～

シコ  
シコ

ビュルル!

グリ

グリ

「ハアハア♪ 気持ひるるきひ、  
あひつゝ止むりにゃいのさ♪

○ルメア♪ ベ箇ひトキルハノウツスルヒテ

「ち～ち、俺の下半身が  
○ルメアのおのづこまれたま

「こめんなさあい♪ とも、気持ちいい～の・・・  
アヒヤ♪ あなたひちやつたあ♪」

アヒィー

ハイ  
ハイ

ヒヒ

ヒヒ

ドロオ～  
ジヨコリオ～

尻ノキ射精した後、俺は○ルメアの胸を揉みしだしていた。

「あー、○ルメアの boob、マジマロおたいに揉りかどる。」

「ん♪団長ちゃんのっぽいばかり弄のしなう、早くオマンコに入れてある♪

○ルメアのオマンコがチンポを欲しそうにヒクヒクと動いてる。



「うわ、○ルメアあたあかねのチンポだー。」

「あん♪ 団長ちゅこのチンポ入ったひきだあ♪

○ルメアの膣内は愛液で濡れていて、すんなりと俺のチンポを受け入れた。

チンポを入れただけで、

○ルメアのオマンコから愛液が溢れはじめてる。

ズブッ!!



俺は○ルメアのオマンコを  
下方から激しく突き上げ始めた。

『あん~あん~あん~チ~ンボ気持ちいい~』



「あん♪あん♪  
あつ気持ちひるすむじ、出でやう!」

「○ルメアは直に突かれたがりたがりやった

「○ルメアのクセでねりが  
俺のカノボに付いたのじゃな?」

「あん♪あん♪めんなさい♪ごも、団長ちゃんに  
オマンコ突かれたがりあがりするの気持ちいい!」



「あん♪へアハア♪  
あなた止まりないのあ♪」

○ルメアは笑み上げる度に、おなりをひじくる。

「○ルメア、そろそろ限界だ。  
膣内に出すぞ。」

俺は脳内にザーメンをぶり出せた。

「ああん♪ 団長ちゃんの  
オチンポミルク入ってましたる♪」



一時間後

あれから俺は○ルメアの脇内に数回射精した。

「あん♪ハアハア♪  
あチンボ氣持ちいい♪あチンボ氣持ちいい♪  
オチンボミルクでイクるる♪」

○ルメアは俺の男根と同時に巨乳をあじこてを出ひだ

「アーリー・アーチーの冒險」

ドアマ!!

♪：ママ

俺がガチンボを引き抜くと、  
膣内から精液万多ドロリと溢れました。

『ハアハア♪アヘ♪  
オマンコから団長ちゃんの  
オチンポミルクが溢れてきてる♪  
あん♪あなら出ちゃう♪』

○ルメアは膣内からザーメンを  
溢れさせるがりあるなりました。

ブウ～♥ ドロオ～♥



俺は○ルメアの乳首を弄り続けた。  
オマンコをヒクヒクと軽く痙攣ひじくる。

「ハアハア♪アヘ♪あなら止まらないああ♪  
オマンコ軽くイキっぱなしなのに、  
そんなんに乳首弄られたら…。  
イッちゅうるう♪」

○ルメアアヘ顔を晒しながら、  
母乳を出しながらイキションまつた。





「ホント今日はあなたばっかりひいてるなあ。  
ひょっとして便秘ひてたのか?」

俺は○ルメアの尻を薙ぎみにじた。

「こめんなさい♪一週間お通じきれないの。  
あん♪团长ちゃん。そんなに強く掴まないで!」

○ルメア尚もあなりぬ出し続けている。

「クンカクンカ♪なるほど一週間ガ  
どりのあなりガクカいわけだッ」

「ああん、臭い嗅いじやいや!  
ダメ。。。あなら止まらないの。あー!」

○ルメアは俺の頭に手を添えていた。

「クンカクンカ♪ルメアのするひ  
ほひるひるちと交わらない臭いだぞ!」

「ぐする♪恥ずかしいよ。」

ガシ~

ドワ~

ブ~

ブリ~

フ~

ケ~



「レロレロ♪あー、もうアナルから  
腸液が溢れ出しちゃう。」

「あああん♪そんなに激しく  
お尻の穴舐められたら。。。」

フ・ク♥  
ケ・カ♥  
レロ♥  
レロ♥

ブ・リ・♥

ブ・ク～♥

トワ～♥

ドロリ～♥

ガシ～♥

俺は○ルメアのあなたを顔面ひ治ひながり、  
アナルを舐め始めた。

「レロレロ♪○ルメアのアナルが  
ヒクヒクじてますぞ」

「あ～あん♪ダメ。。。いつやうー、  
んひい♪団長ちやんにぶる尻の穴舐められて  
いやうるる♪」

○ルメアは潮噴ハラ同時レイヤーをハサツサ

「ああ、○ルメアハロくよ。」





「ハアハア♪ダメー今お尻の穴敏感にならひるがり。」  
「あん♪イッちゃうる♪」

俺は○ルメアのanalに勃起したチ○ポをぶち込みた。  
○ルメアは俺がチ○ポを入れただけで、  
絶頂を回力で潮を噴いたw

「○ルメアのanalがエロ過ぎて、  
俺もう我慢じきないよ！」



「○ルメアのアルメア、  
陽気なさんさん溢れでるー。」

「ハアハア♪あ、あん♪あ、あん♪  
アヒイ♪ケツ穴ひきくす気持ちいいのー。」

「○ルメアは、箇がチンポでズバズバ  
アヘ顔じゅうかってい。」

「○ルメアのアナル、もう限界！」

「気持ちのいい…」

「ハアハアアヒィアヒィア  
お腹にオチンポミルクいっぱい注がれひるの♪」

俺が射精する同時に○ルメアは潮を噴いた。  
「ハアハアあた出し正式なびー！」

俺はチンポを抜かすと、  
再び○ルメアの桃尻を弄始めた。

「アヒィアハアアホのあんな顔でね」

ガシ、

ブリ、

ドブ、

ブフ～

ブリ、

アヒ、

ハマ、

ハマ、

「うるめーのあなた、チノボが押し出される！  
ハアハア♪ 2発目出でぞ！」

「ハアハア♪アヒイ♪  
オチンポミルクしゅうじ気持ちいいのあ♪」

俺が射精すると同時に  
○ルメアはまた潮を噴いた。

ハアハア♪ルメアカラシイキララなひだな

アビ イ♪ハ アハ ア♪あ 姉ちゃん  
団長ちゃんにオチンポミルク注がれるだけこ  
いつちやう体になつちやつたあ♪

ガシ、

7011: ~

トマト

ブラン

70:20

アヒー

ハアハア♪

俺は○ルメアのアナルからチ○ンポを抜いた。  
『ハアハア♪あつダメ！チ○ンポ引き抜かれたり…  
うんちこちゅうるる♪』

俺がチ○ンポを抜くと直ぐアヒー

○ルメアは極太うんちゅうじゅう出し始めた。

『ハアハア♪一週間ぶりのうんち気持ちいいのあ♪  
アヒー♪脱糞アクメでイっちゃうる♪』

○ルメアは極太うんち脱糞アクメ

潮を噴きながらイキションを始めた。

『○ルメアの極太うんち脱糞アクメ  
エロ過ぎるよ!!』

ガシ、

ブリ、

ブリブリブリ、

ブリュリュリ、

ブリマア、

数時間後

あれから俺は、  
○○ルメアとセックスし続けた。  
○○ルメアの尻戻はサーメン塗れになつてゐる。

「あん♪ 団長ちゃん、  
お姉ちゃんもう腰に力が入りないよ♪」

○ルメアは枕をギュッと抱き、  
寝バックの状態だ。

あん~

ハア~

ハア~

「オルメアのオマンコ気持ちよすぎで、  
回り入れても飽きないよ。」

「ハアハア♪ 団長のやん歇じすき♪」

○ルメアのオマンコ気持ちよすぎで、  
俺は夢中で腰を振り続けた。

あん~

ハア~

ハア~

「パンー・パンー・パンー」

「ハアハア♪腔内に出すよー！」

俺は○ルメアの  
腔内にザーメンをぶちまけた。

「ハアハア♪团长ちゃんの  
オチンポミルク入ってこむじる♪」

俺はオマンコだけが、  
今日何度目か判らないくらい射精している。

ドープ!!

あん~

ハア~

ハア~

「ハアハア♪次はナルだー！」

「ハアハア♪團長ちゃんダメー！  
今あ尻が敏感になつ・・・  
ああん♪オチンポ入ってきてる  
『』

俺は○ルメアの静止を無視して、  
ナルにチンポを突き挿れた

ズブ!!

あん~

ハア~

ハア~

「パンーパンーパンー」

「ハアハア♪○ルメアのアナル最高だよ。  
俺のチンポをキューきゅウ締め付けてくれる。」

「ハアハア♪  
オチンポ気持ちよすぎで。。。  
あん♪団長ちゃんのオチンポミルクが。。。」

俺が腰を打ちつける度に、  
○ルメアのオマンコとアナルがり  
ザーメンが溢れでぐる。」

あん♥

ハア~

ハア~

ドリオ~♥

パン!!  
パン!!

あれから一時間後

蓮はアナルに2回射精した。

『パンー・パンー・パンー』

『ハアハア♪少し休ませて。。。  
あん♪あん♪あん♪  
団長ちゃんのオチンポ気持ちよすぎるのであ♪』

○ルメアは隣の部屋に聞こえたせいで、  
大きな声で口元でいる。

『ハアハア♪  
あひ、これで出したら少し休憩だ!』

『アヒィ♪オチンポミルク入ってこさたあ』

アヒィ~

ドリオ~

ドーフ~!!

ハア~

ハア~

『ハアハア♪  
団長ちゃんのオチンポミクルを  
お腹の中タブタブなのぉ♪』

『ハアハア♪  
少し休憩にするわ。』

俺は○ルメアのアナルがどうかをうき抜いた。

『アヘ♪見てえ。あ姉ちゃんのアナル、  
団長ちゃんのオチンポの形に広がっちゃったあ♪』

直腸内のサーーメンが見えてるくらい広がっている

ハア♪

ハア♪

アヘ♪

ドリオ～♪

ヒフ♪

ヒフ♪

「ハアハア♪あつダメーー！  
出ちやう！」

○ルメアのナルから、  
腸内に溜まっている  
俺のサーメンが噴射され始める。

「アヒィイイ♪団長ちゃんの  
オチンポミルクが全部出ちやうる♪」



ブリュ・コ

ドロオー

アヒー

ハア

ハア

「ハアハア♪アヒイ！  
うんちが。。。」

『ああー。○ルメアの腸内から  
極太うんちが見え始めたw』  
「ハアハア♪ 団長ちゃん、見ないこ。。。  
アヒイイイ♪』

ハア～ ハア～

ムリ～

ムリ～

ドロオ～～

アヒイ～

「ハアハア♪ンヒィ！  
うんち出ちちゃうう♪

「ああ！

見事な極太うんちだよ。○ルメア～

「ハアハア♪团长ちゃんに見られながら、  
恥ずかしい極太うんちヒリ出すの気持ちいいよ♪」

ブリブリブリ～

ンヒィ～

ハア～

ハア～

「ハアハア♪アヘ！  
うんち止まりないいいか」

結局、○ルメアは一分近く  
極太うぶちをじり出し続けたw

アヘ♥

ハア♥

ハア♥

ハア♥

朝

少し休憩をとった後、  
俺は朝まで○ルメアのベッドに射精し続けた。  
窓からは朝日が差し込んでいる。

「ハアハア♪団長ちゃんのオチンポミルクいのぱあい♪

あれから何度も脱糞ひたので、  
シーツは○ルメアの糞で汚れていく

ハマハマ

ベットリ♥

トワオ～

アヒイ

ハマハマ

ベント'11

「アヒト♪あなたが出て来るのはお久

○ルメアがひやべつてる途中  
ナルガヒクヒクと痙攣し、あなりはじ始めた。

「ハアハア♪後で綺麗に選択しないと。。。」

「○ルメア、たくせんうんち出したな。  
シーツが○ルメアの糞で茶色く汚れちゃったよ~

A close-up photograph of a woman's face, focusing on her eyes and nose. She has dark hair and is wearing a light-colored top. Overlaid on the image is pink Japanese text: 'ヒト' (hitotomo) appears twice near her eyes, and 'ブン~' (bon~) with a heart symbol is at the bottom right.



「ハアハア♪アヒィー♪とお出でやつたある♪

○ルメアの広がりきつたアナルカリ  
極太うんちが出始めた。

「俺と節句じ始めてから何度目の脱糞だよ。  
ほんと○ルメアはうんち製造機だな。」

「ひゃい♪わらひはブリブリうんちにり出す、  
うんち製造機です♪」



「アヘアヘアヘ♪団長ちゃんに見られながら  
うんちり出すの気持ちいいの♪」

「あ～あ～うんちがごくりと音を始める。うわのたまご  
ほんと○ルメアの脱糞はエロいな。」

「アヒィイイ♪脱糞アクメでイキション出でやがるわ♪」

結局3分近くうんちをこり出し続けた。  
その後、○ルメアの手料理で朝食と一緒に食べた。

ベットリ♥

アヘ~

ハマハマ~

































































